



俳句

尾形千寿 選

鮎釣の先ずは流れを読んで居り
 赤鳥居立つ万緑の八堂山
 ブロンズの乙女の像や遠青嶺
 桑の実を見つけ童のころ思ふ
 緑濃き芝生に座してビルを見る
 美しきものには外すサングラス
 山寺の湯茶の接待風知草
 夏雲があゝの世の夫の顔に似て

川柳

平尾忠文 選

一仕事終えて湯舟でリラックス
 自転車を止めて携帯かける声
 苦労した事皆忘れ幸せよ
 有難いガムの御陰で田植え済み
 手探りで天空目指し伸びる蔓
 何事も齡のせいとは云わないで
 給付金議論あれこれ心待ち
 元気よと電話の中で孫の声

短歌

田坂幸 選

新図書館祝ふがごとく二羽の鷺六月の空に高く舞ふ見ゆ
 湧き水の水面に新樹の影映す新図書館の芝生に憩ふ
 移植なす久万高原の濃き霧に葎の苗もわれも濡れつつ
 山門をむらさきに染め房多く四百年を藤は咲きつぐ
 霧の中トンネル抜けて見上げれば目に眩くも連山光る
 晩春の風にさまよひ来し蝶がこでまりの毬にゆらり身を置く
 切りつめて低き古木の桜木にひこばえありて淡き花咲く
 七名の殉職者ありし馬島に汽笛鳴らして貨物船行く

俳句・川柳・短歌 作品募集

■ 作品（俳句・川柳・短歌の別を書き、漢字にはふりがなを振ってください）・住所・氏名・電話番号を明記し、毎月1日までに担当課へ郵送・持参してください。

応募先

〒793-8601 明屋敷164
 市庁舎本館 総務課 広報情報係
 TEL 0897-52-1204 (直通)

Your Friendly Neighbors

世界のゆかいな仲間たち

No. 52 日本の季節

昨日は暑すぎました。日本国内で一番暑かった所が、36度の西条市だと聞きました。しかもまだ6月だ！ 夏が早くやってきましたが、日本らしく突然暑くなりましたね。

日本での季節の節目はいつも突然のように思います。ある日の帰り道、冷たい風が気持ち良く「日本の春は、なんて素晴らしい」と思いきや、翌朝は汗まみれになって、すぐに氷水のようなシャワーを浴び、エアコンを18度にしたくなるぐらい季節が早く変わります。しかも、夏だけじゃなくて、冬も同じぐらい突然です。突然過ぎて、ストーブの灯油の準備が間に合わないことが多いです。

私はよく日本人に「イギリスでは季節がいくつありますか？」と聞かれます。イギリスには日本と同じ四季がありますが、少しずつ変わっていくので気候の差にそれほど気づかないかもしれません。だから、イギリスでは日本より季節の節目は重視されていないと思います。日本では年間の節目や習慣を深く感じている人が多くいるように思います。それらをより自覚していて、節目に行われる行事でお祝いすることがたくさんあります。お祭りやお花見、七夕などの行事は季節の違いに基づいたもので、1年の気候や風景が時の流れによって変わることによって人間と深い関係を築いてくれるものです。

冬の日と夏の日、まるで別の国みたいです。その違いを認めて、それによってお祝いすることは、私が今年日本を去る時に絶対恋しくなります。日本に戻って、いずれまたそれを経験できればと思います。とはいえ、3年ぶりのイギリスの夏はとても楽しみです。日本の夏は、やっぱり暑すぎます。

《訳：国際交流員ケイレブ》



▲外国語指導助手

● トム・シャラーさん